

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	楽しく、意欲的に取り組める歩行訓練が実施されている
	内容	恵まれたスペースを活用し、事業所内で歩行訓練を実施している。「遊歩倶楽部」と称し、月間100kmを目指し、頑張っている。利用者は他利用者に負けないとの競争意識を啓発し、表彰制度も設けている。歩行距離・登録者の管理を行い 意欲継続を図りながら、一人ひとりが希望する歩行スタイルを把握し援助している。昨年度の新規利用者の利用目的を分析すると、近隣地域在住の方々で要支援1～要介護1・2の方が歩行訓練目的で申込みしていることが判明している。利用者からも大好評を得ている。
2	タイトル	在宅生活をサポートするためのさまざまなサービスの導入が図られている
	内容	前年度末から 近隣のスーパーマーケットへの外出同行プログラムを実施している。その他、近隣の福祉用具専門店での買い物も支援している。特に今年度から始めた「生活基盤型サービス」では、在宅生活をサポートするためにさまざまなサポートを支援している。19時までの延長サービス、夕食持ち帰りサービス、併設ショートステイの併用やショート滞在中に「元気ですか」と訪問する、ヘアカットの導入、衣類の買い物(年2回)、当事業所内での歯科検診等である。また、ゴミ出しに困っていた方に対してのごみ出しサービスも行っている。
3	タイトル	地域の福祉拠点となるべく、地域への貢献活動を展開している
	内容	隔月に「地域開放介護者教室」を開催している。家族勉強会を地域住民の方々にも開放している。8月は製薬会社による熱中症と水分摂取についての勉強会であった。その際は介護に関する個別質問・相談タイムも設けている。また年2回程、小学校との交流会も設け、子どもたちが事業所を訪問し、皆で将棋や囲碁、折り紙、ゲームなどをして楽しむ他、利用者が小学校に出向き、出張授業を行っている。夏季には地域住民の方々が気軽に立ち寄って水が飲めるよう設備とスペースを設け、地域住民の方々への脱水予防に貢献している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	利用者の羞恥心に配慮した支援が望まれる
	内容	デイルーム内で休養する際、ベッドの周囲には衝立やカーテンがないため、休んでいる利用者がまる見え状態である。また、男性利用者と女性利用者が並んで休んでいるという状態である。職員アンケートでも利用者の羞恥心に配慮した支援が改善課題との声が寄せられている。再度、この点での見直しをし、マニュアル等に落とし込み、職員間に共通認識を持ってもらうことが望まれる。
2	タイトル	利用者が選択する楽しみを共有化していくためにも、選択食の導入が望まれる
	内容	食事提供時は利用者個々にランチョマットを用意し、ランチョマットの上にお茶碗・皿・お湯のみ等を置き、家庭的な雰囲気での食事環境に努めている。ただし、主食・副食とも定期的な選択食の提供が行われておらず、利用者の選択する楽しみの機会を作ることが望まれる。
3	タイトル	感染症対策のためにも、利用者への手洗いやうがいの徹底が望まれる
	内容	開設時より、利用者数も増えたこともあるが、手洗いやうがいをする洗面台の数が不足しているため、送迎到着時の手洗いやうがいが十分にできていない状況である。職員アンケートでも「トイレ・手洗い場の不足」を課題としていた職員が複数人いた。ハード的環境であるため、経費や設備の観点から課題があるかもしれないが、冬季の季節は特にインフルエンザ対策のためにも、洗面台の増設が望まれる。